

第1章 高校生の学習行動

耳塚寛明

(お茶の水女子大学助教授)

第1節 学校での授業について

1. 教科の好き嫌い

【高校生が好きな教科のベスト3は、①体育（とても+まあ好き=65.6%）、②芸術（58.8%）、③地歴・公民（45.0%）。国語、家庭、英語、数学、理科の5教科については、「とても好き」と「まあ好き」を合わせても4割程度にとどまる。成績上位者が相対的に好きなのは英語、数学、地歴・公民、理科であり、中位者や、特に下位者は体育、芸術を好んでいる。】（図1-1、表1-1）

Q2

あなたの学校での勉強についてうかがいます。

A. あなたは、次の教科の勉強がどのくらい好きですか。1)~8)の教科のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

高校生は教科の勉強をどのように考えているのだろうか。今回の調査では、高校生の教科観を、(1)どのくらい好きか、(2)どのくらい理解しているか、(3)どんな教科をがんばって勉強したいと思っているか、という3つの側面に分けてとらえた。

まず、高校生の好きな教科、嫌いな教科である。全体としてみると、高校生が好きな教科のベスト3は、①体育（とても+まあ好き=65.6%）、②芸術（58.8%）、③地歴・公民（45.0%）である（図1-1）。以下、国語

（42.5%）、家庭（40.9%）、英語（39.0%）、数学（38.7%）、理科（38.0%）と続く。半数程度以上が「とても好き」「まあ好き」と答えた教科は、体育、芸術の2教科しかない。国語、家庭、英語、数学、理科の5教科については、「とても好き」と「まあ好き」を合わせても4割程度にとどまる。第1回調査と比較すると、教科の順位が多少変動しているものの、全体的傾向に大きな変化はみられない。

これらを性別および成績の自己評価別にみたのが、表1-1である（「とても好き」と「まあ好き」の合計比率によって、属性グループ別に教科を並べかえてある）。

性別によって好きな教科にはまことに大きな偏りがある。男女とも「体育」「芸術」は好きな教科であるが、男子は「体育」をより好み、女子は「芸術」をより好む傾向がある。男子に相対的に好かれているのは、体育、地歴・公民、理科、数学。他方、女子が好きなのは、芸術、国語、家庭、英語である。なぜ性別によりこうした教科の好き嫌いが形作られているのかの解明が必要である。

成績の自己評価別にみると、上位者が相対的に好きなのは英語、数学、地歴・公民、理科であり、中位者や、特に下位者は体育、芸術を好んでいる。

図1-1 教科の好き嫌い

| | とても好き | まあ好き | どちらとも いえない | まあ嫌い | とても嫌い |
|-------|-------|------|---------------|------|-------|
| 国語 | 6.9 | 35.6 | 35.0 | 15.9 | 6.4 |
| 地歴・公民 | 12.4 | 32.6 | 33.2 | 14.5 | 6.8 |
| 数学 | 8.3 | 30.4 | 27.7 | 18.5 | 14.5 |
| 理科 | 9.3 | 28.7 | 34.7 | 17.8 | 9.1 |
| 英語 | 10.2 | 28.8 | 31.1 | 18.6 | 10.9 |
| 芸術 | 26.3 | 32.5 | 26.0 | 10.0 | 4.7 |
| 体育 | 30.3 | 35.3 | 22.3 | 7.7 | 4.5 |
| 家庭 | 10.0 | 30.9 | 37.9 | 13.5 | 7.5 |

注) サンプル数は2615人。

表1-1 教科の好き嫌い（性別、成績の自己評価別）

| 性別 | | 成績の自己評価別 | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|--|--|
| 男子 (1428) | 女子 (1180) | 上位 (399) | 中位 (1541) | 下位 (656) | | |
| 体育 71.6 | 芸術 69.3 | 体育 65.1 | 体育 62.1 | 体育 72.4 | | |
| 地歴・公民 50.7 | 体育 57.8 | 英語 58.6 | 芸術 59.8 | 芸術 59.6 | | |
| 芸術 50.2 | 国語 52.5 | 数学 54.9 | 地歴・公民 46.7 | 家庭 43.9 | | |
| 理科 45.4 | 家庭 51.4 | 地歴・公民 53.1 | 国語 44.4 | 国語 37.5 | | |
| 数学 45.3 | 英語 48.1 | 芸術 52.4 | 英語 40.6 | 地歴・公民 36.1 | | |
| 国語 34.2 | 地歴・公民 38.2 | 理科 48.1 | 数学 39.5 | 理科 29.8 | | |
| 家庭 32.4 | 数学 31.1 | 国語 43.4 | 家庭 39.5 | 数学 27.5 | | |
| 英語 31.6 | 理科 29.1 | 家庭 41.6 | 理科 38.8 | 英語 23.4 | | |

注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

2. 主要5教科の理解度

【理解度の高い順に、国語、地歴・公民、数学、英語、理科。数学と英語の2教科については、第1回調査よりもわずかだが理解度が低下した。】(図1-2~6)

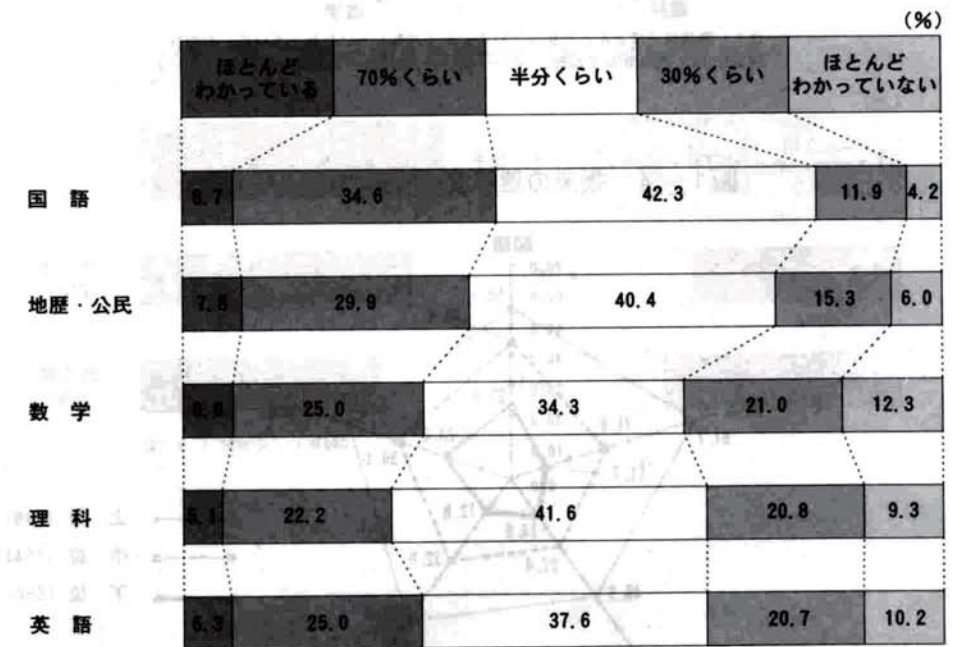
Q2

あなたの学校での勉強についてうかがいます。

B. それでは、学校の授業をどのくらい理解していますか(わかっていますか)。1)~5)の教科のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

国語、地歴・公民、数学、理科、英語の5教科について、どの程度理解しているかについて質問してみた(図1-2)。理解度の高い順に、国語、地歴・公民、数学、英語、理科と並ぶ。しかし、「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の数値を合計してみると、ベスト1の国語ですら4割を超える程度でしかない。数学、理科、英語の3教科については、3分の1程度が70%以上わかっていると答えたにすぎない。これらの数値をみる限り、学習内容を消化している生徒は少数にとどまるとみてよいだろう。

図1-2 授業の理解度



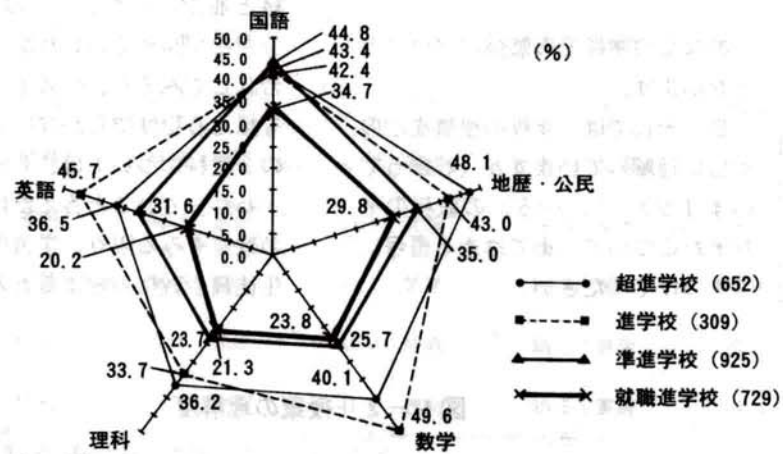
注) サンプル数は2615人。

高校の進学状況別にみると(図1-3)、国語では学校差が小さいものの、おおむね進学率の高い超進学校ほど理解度が高く、就職進学校で低い傾向がある。ただし、数学と英語

の2教科については、進学校のほうが超進学校よりも理解度が高くなっている。

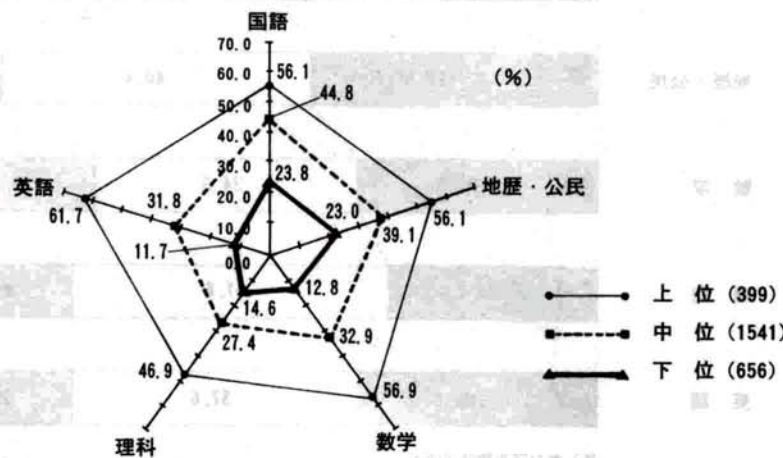
成績の自己評価別には(図1-4)、上位者ほど各教科の理解度が高い傾向が明確に出

図1-3 授業の理解度(高校の進学状況別)



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

図1-4 授業の理解度(成績の自己評価別)



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

ている。上位者と下位者の数値の差から判断すれば、特に理解度の差が大きいのは、数学と英語である。

この数学と英語の理解度を第1回調査と比

較してみると、両教科について理解度の低下がわずかだがみられる(図1-5、図1-6)。

図1-5 数学の授業の理解度(第1回との比較)

| | ほとんどわかっている | 70%くらい | 半分くらい | 30%くらい | ほとんどわかっていない |
|------------|------------|--------|-------|--------|-------------|
| 第1回 (2005) | 8.4 | 28.2 | 35.2 | 18.3 | 10.0 |
| 第2回 (2615) | 6.6 | 25.0 | 34.3 | 21.0 | 12.3 |

注) () 内はサンプル数。

図1-6 英語の授業の理解度(第1回との比較)

| | ほとんどわかっている | 70%くらい | 半分くらい | 30%くらい | ほとんどわかっていない |
|------------|------------|--------|-------|--------|-------------|
| 第1回 (2005) | 7.8 | 27.9 | 37.3 | 18.2 | 7.1 |
| 第2回 (2615) | 6.3 | 25.0 | 37.6 | 20.7 | 10.2 |

注) () 内はサンプル数。

3. がんばって勉強したい教科

【回答は主要5教科に集中。順に並べると英語84.8%、数学69.1%、国語42.6%、理科35.4%、地歴・公民29.7%であり、とりわけ英語と数学への集中度が著しい。第1回調査と比較すると、芸術と体育について「特にながらばって勉強したい」とする回答が増加してそれぞれ1割を超え、また理科をあげる者が42.0%から35.4%へと減少した。】(図1-7、表1-2)

Q2

あなたの学校での勉強についてうかがいます。

C. あなたは、これから学校で、どんな教科をがんばって勉強したいと思いますか。1~8の教科の中で、あなたが特にながらばりたいと思う教科を3つまで選んで、番号に○をつけてください。

これからがんばって勉強したい教科について、3つまで選択させた。芸術、体育、家庭

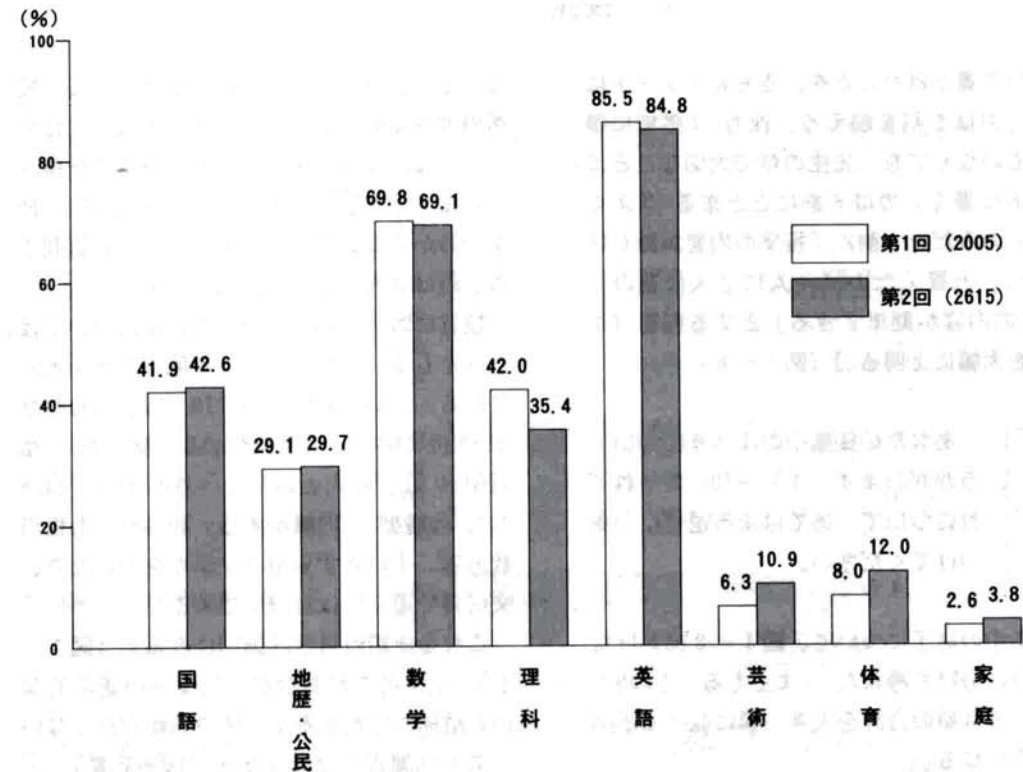
を選択したのはいずれも1割程度以下にすぎず、回答は主要5教科に集中している。順に並べると、英語84.8%、数学69.1%、国語42.6%、理科35.4%、地歴・公民29.7%であり、とりわけ英語と数学への集中度が著しい。

第1回調査と比較すると(図1-7)、芸術と体育について「特にながらばって勉強したい」とする回答が増加してそれぞれ1割を超え、また理科をあげる者が42.0%から35.4%へと大きく減少した。芸術と体育をあげる者が増加したことは、(性急な解釈は禁物だが)高校教育現場で個性的な学習が重視されるようになったことの反映といえるかもしれない。

成績の自己評価別にみると(表1-2)、数学、理科、英語をあげる者が相対的に上位者(中位者)に多く、芸術、体育、家庭をあげる者が下位者に多い。

性別にみると、男子は数学、理科、女子は社会、国語をがんばって勉強したいという傾向がみられる。

図1-7 特にながらばって勉強したい教科(第1回との比較)



注) ()内はサンプル数。

表1-2 特にながらばって勉強したい教科(成績の自己評価別)

| 教科 | 成績の自己評価別 (%) | | |
|-------|--------------|----------|---------|
| | 上位(399) | 中位(1541) | 下位(656) |
| 国語 | 42.1 | 43.7 | 40.2 |
| 地歴・公民 | 28.3 | 30.9 | 27.9 |
| 数学 | 75.4 | 70.0 | 63.1 |
| 理科 | 40.9 | 36.0 | 30.9 |
| 英語 | 84.5 | 87.1 | 79.4 |
| 芸術 | 7.0 | 9.9 | 15.4 |
| 体育 | 8.8 | 9.1 | 20.4 |
| 家庭 | 1.8 | 3.6 | 5.6 |

注1) 3つまで選択。

注2) ()内はサンプル数。

4. 授業の受け方

【「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」のは9割を超える。他方、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」のは6割にとどまる（「よくある」のみだと2割）。「授業の内容が難しいと思う」と答えたのは4人に3人に及び、「授業の内容が簡単すぎる」とする回答（1割）を大幅に上回る。】（図1-8）

Q4

あなたの授業中のようすについてうかがいます。1)～10)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

授業中の様子について、図1-8にあげた10項目に分けて尋ねた。「よくある」と「時々ある」の数値の合計を大きい順に並べると図のようになる。

全体としてみると、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」のは9割を超える。他方、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」のは6割にとどまる（「よくある」のみだと2割）。「授業の内容が難しいと思う」と答えたのは4人に3人に及び、「授業の内容が簡単すぎ

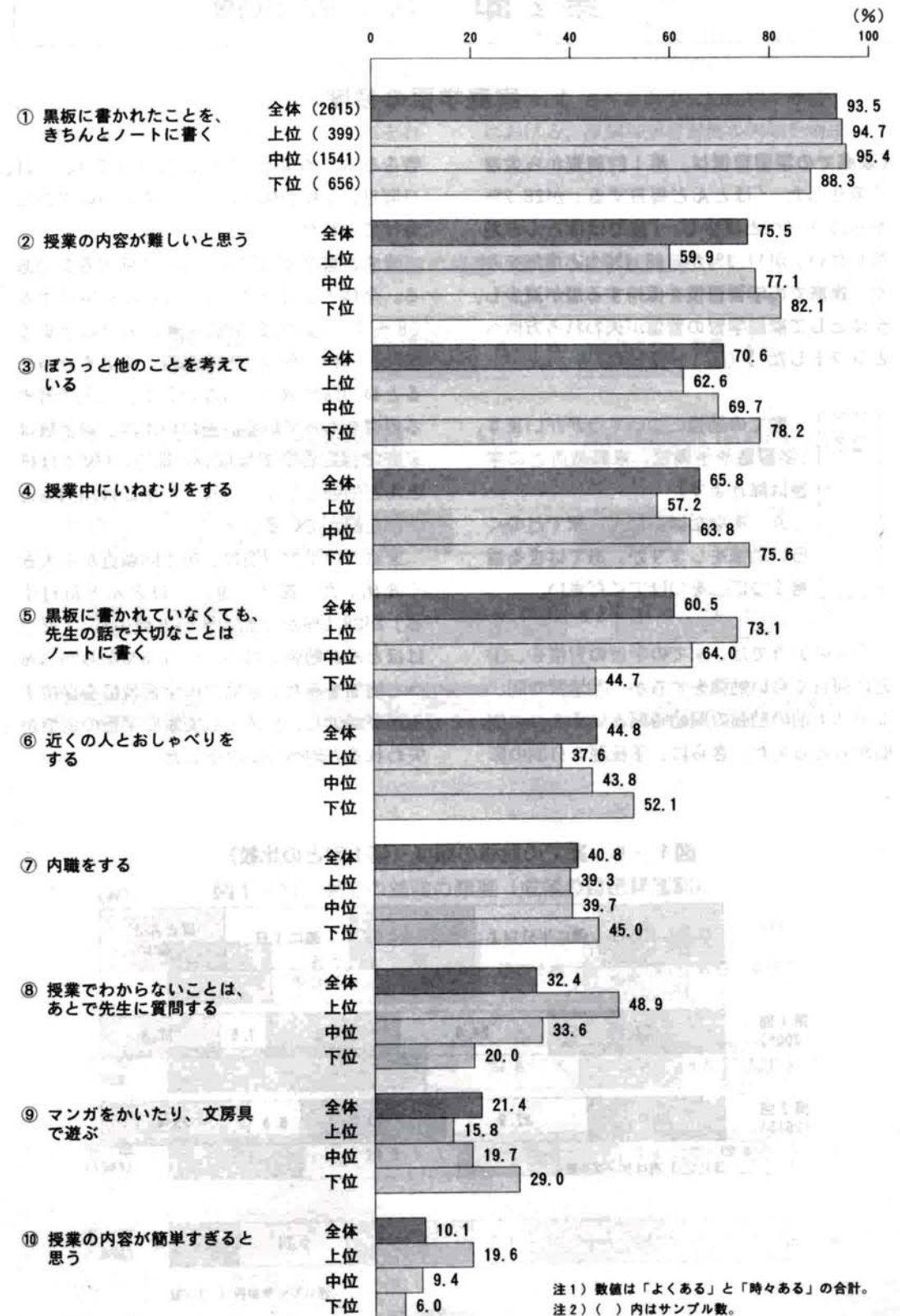
る」とする回答（1割）を大幅に上回る。授業の理解度の項でみたように、多数の生徒が授業内容について未消化だという感覚を持っていることが、この回答からもわかる。「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」のは3人に1人、32.4%である。

授業における広義の逸脱的行動については、もっとも多いのが「ぼうっと他のことを考えている」という非集中型で70.6%、いねむり型（「授業中にいねむりする」65.8%）、私語型（「近くの人とおしゃべりする」44.8%）、内職型（「内職をする」40.8%）も相当数ある。手いたずら型（マンガをかいたり、文房具で遊ぶ）は21.4%である。

これを成績の自己評価別にみると（図1-8）、上位者でおおむね、授業への適応的ないし積極的行動が多く、逸脱的傾向が少ない。

第1回調査と比較すると（図表省略）、全体としては大きな変化はみられないが、「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」（第1回31.1%→第2回21.4%）と「近くの人とおしゃべりする」（同56.2%→44.8%）の2項目で数値が小さくなっている。手いたずら型と私語型が減少している。

図1-8 授業中の様子（全体、成績の自己評価別）



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
注2) ()内はサンプル数。